

江戸東京研究センター

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

該当なし

II 自己点検・評価

1 研究活動

【2019年5月時点における点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 研究所（センター）の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。

2018年度の活動状況について項目ごとに具体的に記入してください。

①研究・教育活動実績（プロジェクト、シンポジウム、セミナー等）

※2018年度に実施したプロジェクト、シンポジウム、セミナー等について、開催日、場所、テーマ、内容、参加者等の詳細を簡条書きで記入。

1. 研究プロジェクト

(1) 水都－基層構造

研究プロジェクト・リーダー：高村雅彦（デザイン工学部建築学科教授）

研究テーマ：古代から現代に至る地形や河川など自然環境に関わる考察

(2) 江戸東京の「ユニークさ」

研究プロジェクト・リーダー：横山泰子（理工学部創生科学科教授）

研究テーマ：武蔵野を意識した江戸東京圏の研究

(3) テクノロジーとアート

研究プロジェクト・リーダー：安孫子信（文学部哲学科教授）

研究テーマ：東京が達成しているものの具体例の枚挙と代表例の選定

(4) 都市東京の近未来

研究プロジェクト・リーダー：北山恒（デザイン工学部建築学科教授）

研究テーマ：次世代都市研究拠点との連携、都市問題の確認、東京近未来研究の位置づけ

2. シンポジウム・研究会等

2018/4/21 日本問答・江戸問答 法政大学市ヶ谷キャンパス

2018/5/31 記号上の復興・エフェメラが形成する戦後東京像 法政大学市ヶ谷キャンパス

2018/6/23 江戸東京の名所研究 法政大学市ヶ谷キャンパス

2018/6/28 水都をめぐる日伊シンポジウム「水の都市と持続可能な発展」（イタリア文化会館／東京都千代田区九段南）

2018/7/8-2018/7/9 風土（FUDO）から江戸東京へ 法政大学市ヶ谷キャンパス

2018/7/15 いま、外濠をどうするのか～ 浚渫からかいぼりへ～（DNPプラザ／東京都新宿区市谷田町）

2018/7/21 FCLT 江戸東京国際ワークショップ「都市の文脈に挑戦する」（HYPERMIX／東京都江東区門前仲町）

2018/7/27 アートとテクノロジーでみる江戸東京 法政大学市ヶ谷キャンパス

2018/7/30 「公共的空間」をつくる7つの事例 法政大学市ヶ谷キャンパス

2018/8/18 源始神楽「玉姫」（山梨県小菅村）

2018/9/22 源始神楽「玉姫」（東京都狛江市）

2018/9/29 江戸周辺地域の広域支配／江戸の都市統治と身分制 法政大学市ヶ谷キャンパス

2018/9/22 WHY TOKYO BIENNALE? 東京ビエンナーレ2020 構想展（3331 ArtsChiyoda／東京都千代田区外神田）

2018/10/13 「江戸東京チャレンジ」キックオフミーティング 法政大学市ヶ谷キャンパス

2018/10/21 江戸東京ビブリオバトル（紀伊國屋書店／東京都新宿区新宿）

2018/10/26 立原道造 故郷を建てる詩人 法政大学市ヶ谷キャンパス

2018/10/29 近未来研究会「小さい流れに 肩入れをする」 法政大学市ヶ谷キャンパス

2018/11/4 水系と音風景がつながる善福寺村と小菅村（井荻會館／東京都杉並区西荻北）

2018/11/9 江戸文化×デザインテクノロジーの可能性 法政大学市ヶ谷キャンパス

2018/11/15 近代東京名所研究の課題 法政大学市ヶ谷キャンパス

2018/11/24-2018/11/25 「アートと東京」「文学と東京」 法政大学市ヶ谷キャンパス

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- 2018/11/30 隅田川をさかのぼる福神の系譜 法政大学市ヶ谷キャンパス
 2018/12/1 市民が選ぶ玉川上水と分水網の関連遺構 100 選 法政大学市ヶ谷キャンパス
 2018/12/9 朝日教育会議「江戸から未来へアバター for ダイバーシティ」 法政大学市ヶ谷キャンパス
 2019/1/16 地図を用いた都市史研究の可能性の探求 法政大学市ヶ谷キャンパス
 2019/1/31 「2つの循環」流れの中に生活の場を位置づける 法政大学市ヶ谷キャンパス
 2019/2/20-2019/2/21 追憶のなかの「江戸」 法政大学市ヶ谷キャンパス
 2019/2/23 江戸東京研究センター2018 年度報告会 法政大学市ヶ谷キャンパス
 2019/3/9 佐原「江戸優り」フォーラム（与倉屋大土蔵／千葉県香取市佐原）
 2019/3/9 中・高・大・地域 連携プロジェクト「江戸東京チャレンジ」発表会 法政大学市ヶ谷キャンパス
 2019/3/14 神明明神「江戸東京文化講座」第1回 田中優子総長（神明明神文化交流館／東京都千代田区外神田）
 2019/3/16 子ども建築塾 発表会（伊東建築塾と共催） 法政大学市ヶ谷キャンパス
 2019/3/23 江戸の基層シンポジウム「古代・中世の府中から武蔵国を探る」法政大学市ヶ谷キャンパス
 2019/3/25 「地域から外濠の再生を考える」シンポジウム 法政大学市ヶ谷キャンパス
 2019/3/30 テクノロジーと東京 法政大学市ヶ谷キャンパス

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・江戸東京研究センター パンフレット vol.1 「江戸東京研究センター紹介パンフレット」
- ・江戸東京研究センター パンフレット vol.2 「江戸東京研究センター 2018 年度報告書」
- ・江戸東京研究センターweb サイト https://edotokyo.hosei.ac.jp/symposium_collegium

②対外的に発表した研究成果（出版物、学会発表等）

※2018 年度に刊行した出版物（発刊日、タイトル、著者、内容等）や実施した学会発表等（学会名、開催日、開催場所、発表者、内容等）の詳細を箇条書きで記入。

1. 著書

- ・書名：へんちくりん 江戸挿絵本 著者：小林ふみ子 発行年月：2019 年 2 月
- ・書名：HOUSING IN MODERN ASIAN CONTEXTS 著者：北山恒（共著） 発行年月：2018 年 11 月
- ・書名：歴史 REAL 大江戸の都市力 著者：江戸東京研究センター 発行年月：2018 年 11 月
- ・書名：イタリア海洋都市の精神 著者：陣内秀信 発行年月：2018 年 10 月
- ・書名：東京の歴史 4 著者：陣内秀信（共編著） 発行年月：2018 年 10 月
- ・書名：江戸怪談を読む 牡丹灯籠 著者：横山泰子・門脇大・今井秀和・斉藤喬・広坂朋信 発行年月：2018 年 7 月
- ・書名：立原道造 故郷を建てる詩人 著者：岡村民夫 発行年月：2018 年 7 月
- ・書名：国際都市ジュネーヴの歴史 宗教・思想・政治・経済 著者：岡村民夫（共著） 発行年月：2018 年 6 月
- ・書名：東京の歴史 5 著者：陣内秀信（共編著） 発行年月：2018 年 5 月
- ・書名：大江戸 知らないことばかり 著者：陣内秀信（共著） 発行年月：2018 年 5 月
- ・書名：大江戸 知らないことばかり一水と商と大火の都 著者：NHK スペシャル「大江戸」制作班編・陣内秀信共著 発行年月：2018 年 5 月
- ・書名：雑誌東京人「外濠を歩く」 発行年月：「東京人」2009 年 1 月号、研究員 3 名が寄稿・制作協力
- ・EToS 叢書 1 「新・江戸東京研究：近代を相対化する都市の未来」 著者：江戸東京研究センター 監修：陣内秀信 発行年月：2019 年 3 月

2. 報告書

- 報告書名：「風土」から見た江戸東京の珍しさ
 著者：星野勉 主体：江戸東京研究センター 発行年：2018 年
- 報告書名：「東京発掘プロジェクト 水辺編 I」
 江戸東京研究センター編 高村雅彦・皆川典久監修 発行年：2018 年
- 報告書名：「復元 江戸城能舞台と弘化勸進能」
 江戸東京研究センター編 高村雅彦監修・高村研究室 発行年：2018 年
- 報告書名：「風土 (FUDO) から江戸東京へ」
 編集・発行：江戸東京研究センター 発行年：2018 年
- 報告書名：「アートと東京／文学と東京」
 編集・発行：江戸東京研究センター 発行年：2018 年

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

報告書名：「江戸東京チャレンジ2018 中高大院のオール法政で考える江戸東京」

編集・発行：江戸東京研究センター 発行年：2018年

3. 論文

- ・論文標題：HYPERMIX 著者：北山恒、工藤徹 雑誌名：JA 112 発表年月：2018年度
- ・論文標題：住民の自伝的記憶から読み解く地域の風景—新潟市佐潟を対象に— 著者：安達幸輝、福井恒明 雑誌名：景観デザイン研究・講演集 発表年月：2018年
- ・論文標題：神田神保町古書店街の発生と変遷 著者：外山実咲、田中咲、福井恒明 雑誌名：景観デザイン研究・講演集 発表年月：2018年
- ・論文標題：明治からの新聞記事にみる外濠 著者：福井恒明 雑誌名：東京人 発表年月：2018年12月
- ・論文標題：安政期における目黒砲薬製造所の建設と地域社会 著者：根崎光男 雑誌名：『人間環境論集』（法政大学人間環境学会）第19巻第1号 発表年月：2018年12月
- ・論文標題：書籍を模擬する遊び —「見立絵本」にかんする疑問、から 著者：小林ふみ子 雑誌名：京都語文 26号 発表年月：2018年11月
- ・論文標題：水の視点から読む武蔵野の原風景 著者：陣内秀信 雑誌名：角川文化振興財団 第1号 発表年月：2018年10月
- ・論文標題：柔らかい共同体を支えるタイポロジー 著者：北山恒 雑誌名：新建築 発表年月：2018年8月
- ・論文標題：事務所と寄宿舎が共存 著者：北山恒 雑誌名：日経アーキテクチャ No.1124 発表年月：2018年7月26日
- ・論文標題：「にわ」をまとう在来工法の住宅とは（インタビュー） 著者：下吹越武人 雑誌名：GA JAPAN 153 発表年月：2018年2018年7月
- ・論文標題：コモンと地域資産が商業を変える ミレニアル世代と人口減少社会の消費を支える場 著者：高村雅彦 雑誌名：日経アーキテクチャ 発表年月：2018年6月
- ・論文標題：『雨珠記』と正応四年の紀州由良隕石 著者：大塚紀弘 雑誌名：汲古 73号 発表年月：2018年6月

4. 査読付論文

論文標題：20世紀東アジアの都市住宅—1950年代北京における街区計画と集合住宅の変遷から読む東京との比較—
発表者名：邵帥

学会等名：東アジア都市史大会・創立記念国際学術大会

発表場所：韓国ソウル・建国大学校 発表年月：2018年6月

論文標題：庭園都市としての20世紀の東京論

発表者名：内藤啓太

学会等名：東アジア都市史大会・創立記念国際学術大会

発表場所：韓国ソウル・建国大学校 発表年月：2018年6月

5. 学会発表

発表標題：江戸の空間認識と地形—江戸名所図会を対象に—

発表者名：小杉千織、福井恒明

学会等名：第14回景観・デザイン研究発表会

発表場所：長崎市民会館 発表年月：2018年12月

発表標題：都市部における文化的景観と住民の活動—「葛飾柴又の文化的景観」を対象として—

発表者名：大迫和己、福井恒明

学会等名：第14回景観・デザイン研究発表会

発表場所：長崎市民会館 発表年月：2018年12月

発表標題：住民の自伝的記憶から読み解く地域の風景—新潟市佐潟を対象に—

発表者名：安達幸輝、福井恒明

学会等名：第14回景観・デザイン研究発表会

発表場所：長崎市民会館 発表年月：2018年12月

発表標題：神田神保町古書店街の発生と変遷

発表者名：外山実咲、田中咲、福井恒明

学会等名：第14回景観・デザイン研究発表会

発表場所：長崎市民会館 発表年月：2018年12月

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

発表標題：歌舞伎と周辺領域—江戸東京の怪談文化の事例

発表者名：横山泰子 学会等名：東アジア日本研究者協議会国際学術大会 2018 年大衆文化研究プロジェクト総合国際シンポジウム

発表場所：京都リサーチパーク 発表年月：2018 年 10 月

発表標題：江戸・周辺地域の広域支配

発表者名：根崎光男

学会等名：法政大学江戸東京研究センター

発表場所：法政大学ボアソナーダタワー3 階マルチメディア 発表年月：2018 年 9 月 29 日

発表標題：現代都市東京に生きる江戸の庭園

発表者名：畠山望美・高村雅彦・内藤啓太

学会等名：日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）

発表場所：東北大学 発表年月：2018 年 9 月

発表標題：庭園都市江戸の多様性について—大名庭園を中心に—

発表者名：内藤啓太・高村雅彦・畠山望美

学会等名：日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）

発表場所：東北大学 発表年月：2018 年 9 月

発表標題：隅田川以東における江戸市街の拡大と水の聖地—水の聖地の意味論その 7

発表者名：高村雅彦・加藤智也

学会等名：日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）

発表場所：東北大学 発表年月：2018 年 9 月

発表標題：中国建国直後（1949-1957）の住宅建築と社会主義政策の関連性—政治都市北京を中心に—東アジア都市の近代における住宅地形成と集合住宅に関する研究 その 2

発表者名：邵帥・高村雅彦

学会等名：2018 年度日本建築学会大会（東北）

発表場所：東北大学 発表年月：2018 年 9 月 5 日

発表標題：遊興空間としての江戸東京の寺社境内

発表者名：塩川瑞実・高村雅彦

学会等名：日本建築学会大会〔東北〕

発表場所：東北大学 発表年月：2018 年 9 月

発表標題：江戸における広場としての寺社境内

発表者名：塩川瑞実・高村雅彦

学会等名：日本民俗建築学会大会研究発表

発表場所：鹿児島大学 発表年月：2018 年 6 月

発表標題：江戸武家屋敷の庭園の特質と展開

発表者名：内藤啓太

学会等名：日本民俗建築学会第 45 回大会

発表場所：鹿児島大学 発表年月：2018 年 6 月

発表標題：現代東京における庭園の継承

発表者名：畠山望美・高村雅彦・内藤啓太

学会等名：日本民俗建築学会第 45 回大会

発表場所：鹿児島大学 発表年月：2018 年 6 月

発表標題：文政期前後の山水名所題絵入狂歌本の出版とその改題・再印—浮世絵風景画流行の前史として—

発表者名：小林ふみ子

学会等名：国際浮世絵学会 2018 年度春季大会

発表場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 発表年月：2018 年 6 月

6. 学会発表（招待講演：国際学会）

発表標題：江戸東京の都市と環境の領域、そして聖地

発表者名：高村雅彦

学会等名：シンポジウム「水系と音風景が繋ぐ善福寺池と小菅村 土地の記憶の発掘・継承・発信」

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

発表場所：東京杉並区井荻会館 発表年月：2018年11月
 発表標題：中神熊野神社と水の集落調査報告
 発表者名：高村雅彦・中原裕規・大久保直輝・田中梨奈・金谷匡高
 学会等名：昭島市中神熊野神社氏子会
 発表場所：中神熊野神社事務所 発表年月：2018年8月
 発表標題：近現代東京の水都論
 発表者名：高村雅彦
 学会等名：東アジア都市史大会・創立記念国際学術大会
 発表場所：韓国ソウル・建国大学校 発表年月：2018年6月
 発表標題：アジアの水の都市
 発表者名：高村雅彦
 学会等名：水都をめぐる日伊シンポジウム「水の都市と持続可能な発展—ヴェネツィアと東京」
 発表場所：イタリア文化会館（東京） 発表年月：2018年6月
 発表標題：アジアの水都と江戸東京の特性
 発表者名：高村雅彦
 学会等名：近代アジアにおける水圏と社会経済シンポジウム「水都から考えるアジア」
 発表場所：東京大学小島ホール発表年月：2018年6月

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・江戸東京研究センター パンフレット vol.2 「江戸東京研究センター 2018年度報告書」
- ・江戸東京研究センターweb サイト <https://edotokyo.hosei.ac.jp/publications>

③研究成果に対する社会的評価（書評・論文等）

※研究所（センター）がこれまでに発行した刊行物に対して2018年度に書かれた書評（刊行物名、件数等）や2018年度

1. 書評

- ・評者名：内海皓平、堀誠 掲載媒体：ファインスチール 掲載年月：2018年秋 対象著書(著者)：K2 House(下吹越武人)
- ・評者名：深尾精一 掲載媒体：新建築 掲載年月：2018年9月 対象：建築作品
- ・評者名：連勇太郎 掲載媒体：新建築 掲載年月：2018年9月18日 対象：建築作品
- ・評者名：篠原資明 掲載媒体：東京新聞・中日新聞 掲載年月：2018年9月16日 対象著書(著者)：立原道造 故郷を建てる詩人(岡村民夫)
- ・評者名：管啓次郎 掲載媒体：日本経済新聞 掲載年月：2018年9月8日 対象著書(著者)：立原道造 故郷を建てる詩人(岡村民夫)
- ・評者名：中山英之 掲載媒体：新建築 掲載年月：2018年9月1日 対象：建築作品
- ・対象著書(著者)：『へんちくりん江戸挿絵本』(小林ふみ子)
 掲載媒体：日本経済新聞 掲載年月：2019年3月2日朝刊
 掲載媒体：朝日新聞 掲載年月：2019年2月16日朝刊

2. 論文引用

引用者名：宮坂新

被引用論文(著者)：江戸幕府放鷹制度の研究(根崎光男)

引用した論文等の概要：江戸周辺地域における江戸幕府の広域行政の特質は多元的・重層的であった。

引用者名：宮坂新

被引用論文(著者)：「鉄炮令」と「江戸十里四方」(根崎光男)

引用した論文等の概要：江戸周辺地域における江戸幕府の広域行政の特質は多元的・重層的であった。

引用者名：山崎久登

被引用論文(著者)：江戸幕府放鷹制度の研究(根崎光男)

引用した論文等の概要：幕府の鷹場による地域一体化論、再編成論を批判したもの。

引用者名：山崎久登

被引用論文(著者)：近世の鷹場規制と環境保全(根崎光男)

引用した論文等の概要：幕府の鷹場による地域一体化論、再編成論を批判したもの。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

引用者名：山崎久登

被引用論文(著者)：江戸周辺地域における鳥類保護の諸相(根崎光男)

引用した論文等の概要：幕府の鷹場による地域一体化論、再編成論を批判したもの。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・江戸東京研究センターパンフレット vol.2「江戸東京研究センター 2018 年度報告書」
- ・江戸東京研究センターweb サイト <https://edotokyo.hosei.ac.jp/publications/others>

④研究所(センター)に対する外部からの組織評価(第三者評価等)

※2018 年度に外部評価を受けている場合には概要を記入。外部評価を受けていない場合については、現状の取り組みや課題、今後の対応等を記入。

2019 年 4 月 19 日開催された外部評価委員会において、目標の設定および実施計画はおおむね妥当かつ適切で、計画通りあるいは計画以上の成果があがっているとして、委員から S あるいは A の評価を得た。特に、出版物やシンポジウム、研究会等の外に見えるかたちでの成果がめざましい点が評価された。また、私立大学ブランディング事業が今年度で終了することとなっても、なんらかの方法でぜひ継続することが望ましいとの指摘があった。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

⑤科研費等外部資金の応募・獲得状況

※2018 年度中に応募した科研費等外部資金(外部資金の名称、件数等)および 2017 年度中に採択を受けた科研費等外部資金(外部資金の名称、件数、金額等)を簡条書きで記入。

1. 2018 年度に交付された外部資金(文部科学省補助金「私立大学研究ブランディング事業」)

2018 年度交付額 44,000,000 円

事業採択年度 2017～2021 年度、補助金交付期間 2017～2019 年度

2. 2018 年度中に応募した外部資金(全て科研費)

(1) 研究代表者

- ・基盤研究(A)(一般) 高村雅彦 水都再生の基礎的・戦略的研究
- ・基盤研究(C)(一般) 安孫子信 オーギュスト・コント『実証哲学講義』の歴史的意義をめぐる学際的研究
- ・基盤研究(C)(一般) 大塚紀弘 資料調査に基づく日本中世における渡来人の基礎的研究
- ・基盤研究(B)(一般) 小口雅史 古代末期防衛的集落の実態解明と、中世移行期日本北方世界を含む北東アジア史の再構築
- ・基盤研究(C)(一般) 川久保俊 住環境改善をもたらす健康影響シミュレーション手法の開発
- ・若手研究 栗生はるか「銭湯」とその周辺地域の持続可能性に関する研究
- ・基盤研究(B)(一般) 出口清孝 将来予測データを用いた建築気候図の作成と気候変動適応策への応用
- ・基盤研究(C)(一般) 中丸宣明 明治前期における新聞に付随する書籍・印刷物の研究
- ・基盤研究(C)(一般) 山本真鳥 オセアニア植民地時代における非白人移住者の歴史人類学的研究

(2) 研究分担者

- ・基盤研究(B)(一般) 川久保俊 将来予測データを用いた建築気候図の作成と気候変動適応策への応用
- ・基盤研究(C) 小林ふみ子 高大連携による古典文学の探究型授業の教材作成と教育モデル構築の実践
- ・基盤研究(A)(一般) 福井恒明 水都再生の基礎的・戦略的研究
- ・基盤研究(A)(一般) 陣内秀信 水都再生の基礎的・戦略的研究
- ・基盤研究(B)(一般) 陣内秀信 地理的表示(GI)を活用した SDGs に寄与する農業と農村振興に関する日欧比較研究

3. 2018 年度中に採択を受けた外部資金(全て科研費)

(1) 研究代表者

- ・基盤研究(B) 2017-04-01～2022-03-31 高村雅彦 1,250,000 円 東アジア都市の住宅地形成と集合住宅に関する学術調査
- ・基盤研究(B) 2017-04-01～2020-03-31 岩佐明彦 664,000 円 東日本大震災を踏まえた応急仮設住宅「熊本型デフォルト」の検証
- ・基盤研究(B) 2015-04-01～2019-03-31 小口雅史 1,590,000 円 物質文化と精神文化の交流と断絶からみた、海峡を繋

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

ぐ「北の内海世界」の総合的研究

- ・基盤研究(B) 2015-04-01～2019-03-31 小口雅史 2,120,000円 諸国探検隊収集・欧亜諸国保管西域出土史料の包括的再点検による東アジア史料学の革新
- ・基盤研究(C)(基金) 2016-04-01～2019-03-31 安孫子信 700,000円 西周の「哲学」の再検討を通じて実証哲学を新たに展望する
- ・基盤研究(C)(基金) 2017-04-01～2021-03-31 米家志乃布 900,000円 民間地図作製史からみたフロンティア像の日露比較研究
- ・若手研究(B)(基金) 2016-04-01～2019-03-31 大塚紀弘 700,000円 資料調査に基づく日本中世における印刷文化の基礎的研究
- ・基盤研究(C)(基金) 2018-04-01～2021-03-31 松本剣志郎 800,000円 近世都市インフラ維持管理の社会史的研究
- ・基盤研究(C)(基金) 2015-04-01～2019-03-31 山本真鳥 400,000円 太平洋現代芸術の人類学的研究—ニュージーランド太平洋系住民のアート活動を中心に
- ・学術図書 山本真鳥 1,000,000円

(2) 研究分担者

- ・基盤研究(B) 2015-04-01～2020-03-31 高村雅彦 590,000円 台湾都市史の再構築のための基盤的研究：都市の移植・土着化・産業化の視座から
- ・基盤研究(B) 2015-04-01～2018-03-31 岩佐明彦 200,000円 地域性と多重な主体の参入体制を組み込んだ応急仮設住宅供給・維持モデルの実践的構築
- ・基盤研究(S) 2017-05-31～2022-03-31 川久保俊 1,000,000円 住環境が脳・循環器・呼吸器・運動器に及ぼす影響実測と疾病・介護予防便益評価
- ・国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)） 2019-02-07～2022-03-31 川久保俊 370,000円 都市における暑熱リスク軽減を目的とした対策導入シナリオに関する国際共同研究
- ・基盤研究(A) 2018-04-01～2022-03-31 小口雅史 150,000円 平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化
- ・基盤研究(B) 2016-04-01～2020-03-31 小口雅史 1,720,500円 在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究
- ・基盤研究(B) 2017-04-01～2021-03-31 小口雅史 260,000円 中世の書簡体文書による統治実践と秩序形成をめぐる日欧比較研究
- ・基盤研究(B) 2016-04-01～2019-03-31 小林ふみ子 400,000円 大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究
- ・基盤研究(B) 2016-04-01～2020-03-31 大塚紀弘 30,000円 在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・研究開発センター市ヶ谷事務課作成資料および科学研究費データベース KAKEN による。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特色 1 文系と理系の異分野融合の研究組織であり、かつ研究業績が上がっている点。・特色 2 学外の研究組織（大学、博物館）や地域、企業などとの連携活動の可能性があり、かつ実際に実績が積み上げられている点。・特色 3 学内の人的ネットワークを多様に作ることができる点。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・文部科学省の方針変更により、研究計画を大幅に見直さねばならず、組織のあり方と予算編成を再検討しなければならないのが最大の問題点である。早急に委員会を開催し、対応を審議中である。	

【この基準の大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

江戸東京研究センターの研究活動実績に関しては、バラエティにとんだシンポジウム、研究会、ワークショップ、文化講演会などが、法政大学にとどまらず都内の多様な場所で開催されており評価できる。2018年度の研究成果は、純学問的内容から市民向け啓蒙的性格のものまで、多彩な内容が著書、報告書、論文、学会発表として対外的に発表されていて、旺盛な研究活動が認められる。また、書評や論文引用など、社会的影響力が認められる。第三者評価等による外部からの組織評価も得られている。科研費等外部資金については、国際日本学研究所との重複が多く、また「江戸東京文化センター」の守備範囲が判断に迷う案件が相当数認められる憾みがあるが、多くの件数を獲得するに至っている。

III 2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書

該当なし

IV 2019年度中期・年度目標

No	評価基準	研究活動
1	中期目標	学際的研究教育拠点の形成。 エコ地域デザイン研究センターと国際日本学研究所が共同し、国際化の時代に対応した先端的な江戸東京研究を行い、研究成果を社会に広く還元するとともに、持続可能な地域社会の構築を目指す教育拠点となる。
	年度目標	2019年度のテーマは「江戸東京の社会的・文化的特徴に関する研究と〈実践知〉を生かした市民・一般参加の拡大」を事業目標とする
	達成指標	一般市民にも開かれた従来型の研究会とシンポジウムの他、今年度中に新たな市民講座の開設と社会人教育を行う
No	評価基準	社会連携・社会貢献
2	中期目標	東京の貴重な水辺である外濠・玉川上水をはじめ、東京の地域に対する関心を高め、具体的な環境改善につなげる
	年度目標	外濠に関する研究の蓄積を生かした市民活動を継続
	達成指標	外濠に関する研究の蓄積を生かした市民活動を継続

【重点目標】

今年度末には、2017年度から継続中の事業成果を総括し、公にする必要がある。既に研究成果は積み上げられているが、現在進行中の研究活動については可能な限り今年度中にまとめ、形にすることを重点目標とする。そのため、まずは研究プロジェクトの活動内容の再検討を行い、研究成果の書籍化やweb上での成果公開などを目指す。

【2019年度中期・年度目標に関する大学評価】

「国際化の時代に対応した先端的な江戸東京研究」「持続可能な地域社会の構築を目指す教育拠点となる」という中期目標は、理解できるが目標としては抽象的であると思われる。この点は年度目標・達成指標も同様である。また、「市民・一般参加の拡大」（年度目標）や「新たな市民講座の開設と社会人教育を行う」（達成指標）は、研究活動の項目ではなく、社会連携・社会貢献の項目に掲げられるべき目標・指標であるように思われる。評価基準の社会連携・社会貢献については、2019年度年度目標と達成指標が全く同文であることも望ましくない。今後は、江戸東京研究センターの設置目的や研究実績を踏まえた具体的な中期・年度目標の策定が期待される。

【大学評価総評】

エコ地域デザイン研究センターと国際日本学研究所との協同によって生まれた江戸東京研究センターにおいては、設置されて日が浅く、研究活動も試行錯誤の段階であろうと思われる。創設間もないにもかかわらず、多様な江戸東京研究の諸分野にまたがる研究・教育活動実績が認められ、出版物、学会発表等の研究成果も蓄積されてきている。科研費等外部資金の応募・獲得状況もめざましい。

しかし、2019年度中期目標・年度目標・達成指標については抽象的であると思われる。今後の目標策定にあたっては、以下の2点を踏まえることが必要であろう。第1は、HPの〔江戸東京研究センター>研究ブランディング事業>事業計画書>年次計画〕に公表されている「平成31（令和元）年度」の「目標」「実施計画」との整合性である。第2は4つの研究プロジェクトとの関連である。中期計画と年次計画を階層的に位置づけ、達成指標は具体的に「指標」となる項目を挙げる必要がある。これらの腑分けによって、ややもすると雑駁な印象を与えかねない研究活動の諸側面も、自ら系統づけられ整理されるように思われる。今後に期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。